

特集

越相同盟と北条氏邦

関東三國志

歴史館初の 国宝展示

期間／10月11日(土)～11月24日(月)
 休館日／10月14日(火)、20日(月)、27日(月)、
 11月4日(火)、10日(月)、17日(月)
 開館時間／午前9時30分～午後4時30分
 (入館は午後4時まで)
 場所／鉢形城歴史館企画展示室
 費用／一般200円、高校・大学生100円
 (20人以上で半額)、中学生以下・70歳
 以上・障害者手帳をお持ちの方は無料
 問い合わせ／鉢形城歴史館(☎586・
 0315、FAX580-0818)へ。

鉢形城歴史館が開館して本年秋で10年を迎えることから、それを記念して特別展を開催します。平成25年の春季・秋季の企画展では「プレ北条氏邦」と題し、上杉顕定や長尾景春といった城主をテーマに展示会を開催しました。いよいよ真打ちというべき「北条氏邦」の登場です。これまでの企画展は、鉢形城開城など晩年の氏邦を扱うものが多かったのですが、今回の特別展では若々しい氏邦が活躍した「越相同盟」についてご紹介します。越後の上杉謙信と相模の北条氏とが手を握った越相同盟。越相同盟の史料は、米沢市上杉博物館が所蔵する国宝「上杉家文書」に多く残されています。特別展ではこの越相同盟をテーマに、上杉家文書を中心に北条・上杉・甲斐の武田氏の三者の関係資料を展示します。歴史館初の国宝展示となりますので、ぜひご来館いただき、鉢形城主北条氏邦の活躍に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

越相同盟の背景

小田原を本拠とする後北条氏の三代当主氏康は、天文15年(1546)の河越夜戦に勝利し、武蔵国の進出を決定的なものとなりました。さらに、同21年には関東管領上杉憲政を越後へ追い立て、上野への進出を図っていました。そのため同23年に、当時敵対していた駿河の今川義元と甲斐の武田信玄と同盟を結びました。これがいわゆる甲相駿三国同盟です。この同盟により武田氏は北信濃・西上野への進出に成功し、今川氏は三河・尾張に触手を伸ばしました。永禄3年(1560)の桶狭間の戦いは、この同盟を背景とした今川義元の尾張進軍中の出来事です。関東の支配権をめぐり、上杉謙信軍と、氏康・氏政父子の北条軍は、絶え間ない軍事的緊張に晒される年月を過

越相同盟の成立

永禄11年12月19日、氏邦の兄である氏照は、上杉氏に同盟を申し入れる書状を厩橋城主北条高広に託しました。高広はかつて上杉氏の重臣であり、永禄9年から北条氏に味方していました。

ごしていましたが、同盟により氏康は対上杉謙信との抗争に集中することができました。ところが、永禄11年(1568)の暮れ、突如として武田信玄が駿河に侵攻し、今川氏真は掛川城(静岡県掛川市)へ逃げ込むという事件が発生しました。ここに三国同盟は破棄され、北条氏の外交方針は転換の必要に迫られることとなりました。氏康は武田信玄に対抗するため、これまで敵対していた上杉謙信と同盟することを決め、その難題を成し遂げたのが、鉢形城主北条氏邦でした。



素懸紫系威黒塗板物五枚胴具足(伝上杉憲政所用具足)



北条氏康



武田信玄



上杉謙信

また、氏邦は父氏康の命令を受け、上杉氏との交渉を開始しました。氏照↓高広↓直江景綱↓上杉謙信の交渉ルートである「北条手筋」に対し、氏邦↓由良成繁↓沼田城在番衆(河田景繁・上野家成・松本景繁)↓山吉豊守↓上杉謙信のルートを「由良手筋」と呼びます。

氏照主導で同盟交渉が開始されたものと思われています。しかし、氏康の永禄12年1月2日付の書状では、氏邦の「越相一和(同盟)の申し入れに対し、「預懇切之回報本望至極候」とあり、既に往復書簡のやり取りを行っていたことがわかります。このことから、氏照の交渉よりも氏邦の交渉の方が早くに進んでいたと思われています。氏照の書状が届く前の永禄11年12月17日に、兄で北条家四代当主氏政の命により、遠山康英が上杉方の沼田城へ派遣されているため、17日から氏邦の由良手筋による交渉が開始されていたと推測されます。そのころ上杉氏は、前年から本庄繁長が村上城(新潟県村上市)に拠って反旗を翻しており、武田信玄との軍事的な緊張関係が続く中で、謙信は村上城を包囲していました。対武田戦略として北条氏と同盟を結ぶことは、謙信